

# 平成19年度つといの広場研修セミナー 「子育てひろば研修セミナー〈大垣開催〉」のご報告

## まちの「ひろば」、いなかの「ひろば」

### ～地域の実情(ニーズ)・特徴を活かして～

#### 実施概要

- 日時 平成20年1月25日(金) 10:00～16:50
- 場所 大垣市スイトピアセンター 学習館(岐阜県大垣市室本町5-51)
- 対象 地域子育て支援拠点事業や場を持つ子育て支援に関わる実践者(子育てサロン・子育てサークルなどを含む)・行政関係者・研究者・その他子育て支援に関心のある人。
- 主催 財団法人こども未来財団
- 共催 NPO法人子育てひろば全国連絡協議会
- 協力 「子育てひろば研修セミナー大垣開催」実行委員会
- 後援 厚生労働省・(社福)全国社会福祉協議会・岐阜県  
大垣市・大垣市教育委員会
- 参加人数 177名

## 開催概要

今年度より、つどいの広場事業、地域子育て支援センター事業が統合され新たに再編されましたので、今回のセミナーを、それぞれの子育て支援拠点の意義と役割を検証する機会にしたいと考えました。

伊吹おろしの吹く寒い中でしたが、予想を超える177名の参加があり、行政とともに、地域における子育て支援拠点間のネットワークを図りながら、子育て支援現場のスタッフ一人ひとりが、日頃の活動を振り返り、見識を深め、スキルアップを図ることができました。

岐阜県では、地域によって面積あたりの子どもの数が大きく異なり、施設まで行くのに車で1時間以上かかる山間部の「ひろば」では、ニーズもおのずから違ってきます。

それらの実情や特徴を生かした“子育て支援拠点のあり方”を参加者と共に考え、さらに、これからひろばを始めようとする方や現在活動中のスタッフが、共に身近に抱える課題について、本音で語り合うことができました。

参加者からは「交流会もあり、いろいろな意見が聞けてよかった。」と、うれしい感想をたくさんいただきました。

ご参加くださったみなさま、ありがとうございました。

## 事業報告

### プログラム【1】 基調報告 10:00~10:15

10:00~10:15 開会挨拶



こども未来財団  
佐藤よこいさん



大垣市福祉部  
小川博隆さん



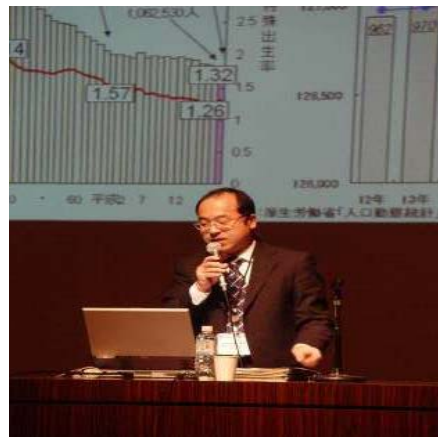
子育てひろば全国連絡協議会  
奥山千鶴子さん

10:15~10:45 基調報告

～地域子育て支援拠点事業の概要と展望～

厚生労働省少子化対策企画室 赤塚孝行さん

「親も子どもも自分から育つ、自らが育つ…という場作りを、行政・市民（NPO）が協働してつくってほしい。ワーク・ライフ・バランスの実現が、今後の大きな課題であるが、家庭における子育ての支援として、地域子育て拠点の整備は重要である。次世代を育む循環を地域に生み出し、地域の子育て力の向上の拠点となる『ひろば』を、点から面へという意識で、数の拡充を目指していく。」という報告でした。



プログラム【2】 シンポジウム 10:45~12:00  
～地域における子育てひろばの役割と方向性～

【シンポジスト】 奥山千鶴子さん NPO 法人びーのびーの理事長  
岩田 太さん 岐阜県健康福祉部子ども家庭課課長補佐  
赤塚孝行さん 厚生労働省少子化対策企画室  
安田典子さん NPO 法人くすくす理事長



地域子育て拠点の整備、子育て支援の役割と機能、今後の方向性などに関して、意見が取り交わされました。さらに、スタッフが子育て支援の目的や理念を共有しているかどうかや、親たちをつなぐ役割、利用者の潜在的な力を引き出す役割などを果たしているかどうかについても、話が深められました。現役スタッフだけでなく、これからひろばを始めようとする人たちも、原点に立ち戻ることができたということで、このシンポジウムはたいへん重要な意味があったと思われます。

### プログラム【3】ランチタイム交流会 12:15~13:45

【ファシリテーター】伊藤早苗さん まちひとびら座かんかこかん運営委員長

県外からの参加も多かったので、参加地域ごとの紹介のあと、自由交流の時間が持たれ、あちこちで話の輪ができました。

その後、ひろばの活動PRの時間が持たれ、各自の熱い思いや、活発な情報提供や、質問がなされ、和気あいあいとした情報交換の場となりました。



### プログラム【4】分科会 14:00~16:00

〈分科会1〉 ひろばの魅力と可能性  
～様々な協働と子育て支援を考える～

〈分科会2〉 子育て家庭によりそうために  
～利用者は十人十色…  
スタッフをされていて楽しかったこと・つらかったこと～

〈分科会3〉 魔法のポケット  
～いろいろな『遊び』あれこれ～



## 〈分科会1〉 ひろばの魅力と可能性 ～様々な協働と子育て支援を考える～

【事例報告】野口比呂美さん NPO 法人やまがた育児サークルランド代表

【事例報告】安藤五月江さん 恵那市少子化対策推進室主査

【事例報告】田谷孝幸さん 高山市子育て支援課児童政策リーダー

【助言者】赤塚孝行さん 厚生労働省少子化対策企画室

【ファシリテーター】安田典子さん NPO 法人くすくす理事長

地域の事情や課題をふまえて、「市民ができること」「行政ができること」など、さまざまな協働のあり方やポイントを考えました。

ひろばを開設している行政の立場からと、当事者の立場から、事例報告や苦労していることや困った点などのお話を聞き、これからのさまざまな可能性をみんなで考えることのできた分科会でした。

ひろばにたくさんの人々がかかわることによって、さまざまな親子が利用しやすくなり、ひろばが「より魅力的な」「より心地よい」居場所と感じられるようになるという報告でした。

分科会で学んだことを地域に持ち帰り、ひろばスタッフ・行政・地域の皆さんが交流し、ネットワークをつくり、日本の子育てをより良い環境にできるように支援をしていきたいものです。



## 〈分科会2〉 子育て家庭によりそうために

～利用者は十人十色～

スタッフをしていて楽しかったこと・つらかったこと～

【ファシリテーター】 山岸和子さん まちひとぶら座かんかこかんこどもひろばスタッフ

【ファシリテーター】 中澤康子さん 海津市南部保育園つどのひろば保育士

【ファシリテーター】 小澤久美子さん

幼児教育センターみなみ園子育て支援センターつどの広場担当保育士

【ファシリテーター】 堀洋子さん 池田町児童館長

【ファシリテーター】 高橋和子さん 揖斐川町子育て支援センター所長

【ファシリテーター】 伊藤早苗さん まちひとぶら座かんかこかん運営委員長

【助言者】 伊藤一美さん NPO法人子ども&まちネット理事長

1グループ10名、6グループに分かれ、ワークショップ形式で、「今まで活動してきた中で、できた!と思ったことや楽しかったこと」、そして「今まで活動してきた中で、つらかったこと」を出し合いました。

それぞれの体験を共有したり、振り返ったりする中で、あらたな視点に気づき、自分たちが抱えている課題を整理することができました。

色々な立場で子育て支援に関わっている人たちに出会えたことも、大きな収穫でした。



### 〈分科会3〉 魔法のポケット ～いろいろな「遊び」あれこれ～

【アドバイザー】伊藤明美さん 大垣市子育て交流プラザスタッフ

【ファシリテーター】丸山政子さん NPO法人子育て支援のNPOまめっこ理事長

現場で実際に活動している参加者の一人ひとりが、『遊び』の役割を考え、工夫していることなど分かち合いました。「遊びで、利用者の興味を引きたい」という発言もありましたが、「遊びを、スタッフの自己満足の場にしない」ということを再確認し合いました。

子育て支援は、遊びだけでなく生活の場であること、そして、ひろばをさまざまな遊びのツールを持っている幅広い人たちが関わられるような場にするのを、常に考えて行く大切さを学びました。





## プログラム【5】 全体交流会 16:10~16:50

【第1分科会報告】 安田典子さん NPO法人くすくす理事長

【第2分科会報告】 伊藤一美さん NPO法人子ども&まちネット理事長

【第3分科会報告】 丸山政子さん NPO法人子育て支援のNPOまめっこ理事長

【ファシリテーター】 小池肇子さん NPO法人くすくす理事

それぞれの分科会で話しあわれたことが報告されました。各分科会の会場の様子が、後ろのスクリーンに映されたことで、参加できなかったところの雰囲気がよくわかりました。

会場からも「自分たちの今後の活動の参考になった、新しい視野が開けた、こういう点についてはどうか」といった発言がありました。

地域子育て支援拠点の中の「つどい型」は、もともと地域の住民の活動の中から生み出されてきたものです。決められたモデルに従って、全国一律に実施するようになれば、「ひろば」の良さが失われかねません。それぞれの地域ならではの「ひろば」を、民間と行政が協働して実施していくことの大切さを確認できる場となりました。

